落葉防止対策を万全に…!!

茶指導販売課　福手 裕三

防寒対策はお済ですか？

これから春先にかけては、季節風がかなり強い日もあるので、防風施設の点検補強などが必要です。

寒害

茶樹の寒さに対する抵抗性（耐凍性、耐寒性）は、**【成葉＝枝＞芽＞幹＞根】**の順序で高い特性があります。一般的に樹木の耐凍性は、枝条末端の葉から始まり、順次幹の下方に伝えられます。下方の末端である細根は厳冬期でも耐凍性が高まらず、−3〜4℃が限界の温度とされています。

冬期の気象災害

茶樹の越冬中の気象災害は、**低温・小雨・寒風**などにより発生し、様々な症状が見られます。11月号で冬季の気象災害の分類と特徴を掲載しましたが、もう少し細かい話をさせていただきます。

⑴赤枯れ（凍害）

茶樹が−10℃以下の低温下に長時間おかれた場合に被害が大きくなり、葉茎が被害を受けるとともに越冬芽も被害を受け、春芽の伸長が不良となります。越冬時の芽が、萌芽状態より進んでいると被害が大きくなります。

⑵青枯れ（寒早害）

冬季が寒冷で、雨が少なく土壌が乾燥した状態になり、葉からの水分蒸散に根の給水が追い付かない場合に、**寒早害**が発生します。葉が水分不足のため枯死し青白くみえることから青枯れとも言われています。枯死直後は青く見え、やがて降雨などにより褐変し、赤枯れと間違えやすくなります。赤枯れは葉が変形しないのに対し、青枯れは水分不足のため葉が変形する特徴があります。

⑶幹割れ（裂傷型凍害）

晩秋から初冬になっても気温が高く、茶樹が生育を停止しない状態で、急な氷点下の低温に遭遇した場合に発生します。症状は地際部の形成層が凍結し、表皮がはがれるため、水分の供給がたたれ茎が枯死します。幹が割れるため**幹割れ**または、**裂傷型凍害**と言われています。

品種別耐寒性の違い

強い	かなやみどり　はるみどり　あさひ　ごこう　さみどり　ふうしゅん
やや強い	さやまみどり　やまかい　おくひかり
中	やぶきた　やえほ　あさつゆ　おくみどり　おおいわせ　山の息吹 さえみどり　さきみどり
やや弱い	ゆたかみどり　めいりょく　そうふう　べにふうき

（茶大百科Ⅱ技術資料参照）